

第4回県都デザイン懇話会 会議記録

日 時 平成24年11月26日（月）16:00～17:20
場 所 福井市役所別館5階 大講堂

○議 事

（西村座長）

- ・先ほど県都デザインフォーラムで私の方から簡単に説明させていただいたが、コメントがたくさん寄せられた。全体として、県民、市民がどういった形で参加できるのかとか、途中のプロセスで参加できるようにしてほしいとか、もう少し議論できるようにしてほしいということが言われていた。その辺りも留意しながら、今日は議論したい。

<事務局より説明>

- ・事務局（資料2、3）

（下川委員）

- ・早期事業化ということでどちらかという作りこみの部分、ハードな部分を中心となっているとは思いますが、市民と協働する仕組みを作り上げていくということが、この中に盛り込んでいただけるのかどうかお聞きしたい。

（西村座長）

- ・実現化の中で市民が参加するような仕組みをどう考えているか。

（木村企画幹）

- ・今日お示ししたのは、これまでのアンケートやワークショップ、懇話会でのご議論などを事務局の方で整理したもの。早期事業化というのは、これをやらないと、1年半かけて議論して作り上げる県都ビジョンの成果が表に出てこないということで示させていただいている。
- ・県民会館周辺においては、事業費の関係もあれば、県民、市民の協力も必要になる。今こういう形で案を示しているが、別の形があるのではないかという議論は、当然その場その場でやっていく必要がある。また、色んな場で、参加していただく機会については検討していきたい。

(東村部長)

- ・こういう早期事業化を検討したというのは、議論に議論を重ねた結果、冊子が一つできただけでは非常に寂しいので、この中にリーディング的なプロジェクトを載せるべきだろうということ。
- ・今日のフォーラムでも出ていたが、デザインなどを市民の前で公開しながらやっていくというソフトの取り組みを、先進的に取り組んでいくということも、是非皆で議論して、試していきたいと思っている。
- ・骨子の推進方策の中にも、デザインマネジメントの徹底であるとか、県内外からの英知を集め、空間デザインに活用と掲げているので、これを常に意識しながら推進していきたい。

(国吉委員)

- ・資料3は予算の事とかで必要とは思いますが、9つの事業だけをやるんだと捉えられてしまっては良くない。市民参加の問題もある。これはきっかけにしかすぎず、これを題材にしながら、色んなものを育てていく、開発していく、ソフトの部分が必要だと思う。
- ・事業が個別にばらばらにならないように、「総合デザイン推進会議」みたいなものがあるって、市民の意見を取り込みながら、色んな事業をつないでいく。そういうものを合わせてやっていくということと一緒に言わないと、やはり個別事業に目がいつてしまう。そうならないようにした方がよい。
- ・「県都デザイン戦略」は行政用語としては良いが、対外的にはあまりうけない。外に発表する時には、インパクトのあるタイトルを作った方がよい。「福井〇〇プロジェクト」など、他の県からも興味を持たれるように。代表となるテーマは、見えにくくなった歴史をもう少し表にだそうということだと思があるので、例えば「福井歴史環境都市プロジェクト」などはどうか。色んな意見を聞いて議論すべき。

(竹内委員)

- ・ここで具体的に9つの事業が並ぶと、みんなそれだけをやるんだと受け取ると思う。大きな話、物語があって、その中で細かい事業があるという流れだということが分からないと、市民も夢を持ってまちづくりに参加しようという気にはなっていない。参加しようという人には、まちが変わるというきっかけがほしいという話がフォーラムでも出ていた。大きな話(夢が持てる、期待感の持てる)がないと事業が終わったら終わりという風を感じて、継続的なまちづくりと縁が切れてしまうのではないかというのが心配。

(開発委員)

- 地元の事業者側の立場からすれば、こういうアウトラインを示してもらえただけでも、ある程度の中期的なポジションが取れるので、こういうことを発表してもらえるとというのは、これで十分良いかなとも思う。
- 確かに、県民、市民の参加という形で、西村先生は最初にソフト的な事業と言われたが、そこまでこの中で整理すると、市民の思いやそういったものの受け皿も行政、自治体が担うとなるとどうしても杓子定規で硬くなってしまう。
- 吉祥寺のサンロード商店街では、商店街が主催して商店街の将来像をコンペして、優勝賞金にサンロード商店街のチケットをあげたりして、市民が相互に思いを描きつつ、具体像を行政が受けて今後どうするか考えていくという話だった。
- もう少し民間側に期待してもいいし、民間側の活力を信じてあげても良い。市民のなんとかかんとかというところまで具体的に掘り下げていくと、自由度がなくなってしまうように思うので、そういうところは民間の方たちでもっと自由度を膨らませていって、走りながら新しいものを生み出していくという感覚でやられた方がよいのではないかという感じがする。

(勝木委員)

- ここに出されたものについては、これまでの議論を踏まえて盛り込んでいただいて、それなりのものができているというふうを感じる。
- 問題なのは、ものが新しくなって、良いものができたというふうに自己満足をするだけで、一般の方々には足を運んで利用してもらえないこと。中央公園も、整備をしてもそこにどれだけの方々が来てもらえるかということを考えているかどうか。憩いの場所として利用していただけるかどうか。そういう視点が、この図面の中には少し欠如しているのではないか。
- 来られる方の7割くらいは地元の方とか県民の方でなければ、県外の方が来るわけがない。大体県外の方が3割、地元の方が7割くらいで、整備した場所を使っていかなければいけないと思う。
- 交通体系、バスの問題がある。福井市内のバス利用客は年間4百数十万人いたのが、今は290万人と激減している。人が動ける状況、人が簡単にまちに集まれて、ここで憩うという状況を作ってあげる事が大事。
- 県内、県外からは車で来られる方々がやはり多い。例えば、富山の環水公園は、奥に広大な駐車場がある。まち歩きができる出石だとか高山といったまちにも、周辺に広大な無料の駐車場がある。もちろん有料もたくさんある。そういった駐車場もある程度準備をしておかなくてはいけない。モノはできても、そこに行ってもなかなか思うようにゆったり見れないという状況では意味がない。
- 食の拠点の整備を駅周辺でやろうというのが書いてあるが、食の拠点を駅周辺でや

るだけの広いスペースがどこにあるのかがよく分からない。もちろん福井にとっては将来売りになる可能性があるし、市民の方々も県民の方々も県外の観光客にとっても、とても重要なポイントだと思うが、どこかというところをある程度はっきりしないと、駅周辺には場所がないのではないか。小さなものをやるのならやらない方が良いと思う。

(吉田委員)

- ・時鐘楼については、場所が分かっていなかった。資料3の9ページの写真には浜町時鐘楼と書いてある。昔の浜町は現在の桜橋より西側で、城下町は通りの両側が町名になっているので、浜町通りの両側が浜町であり、浜町時鐘楼はこのどちらかにあったと思っていた。ところがそれは違っており、今のリバー ज्याアケボノのところにあった。
- ・ここには元々市役所があり、その前は小学校があり、江戸時代は木蔵とって、藩の木材の蔵があった。そのため江戸時代、ここは木蔵町という士族街だった。明治7年にお堀を含めて木蔵町と浜町が合わせて一つの浜町になる。新しい町ができて、その構成として旧浜町と本町2つがあるということになった。
- ・時鐘楼の写真を見ると、左側はお堀を埋めてつくった新しい町。右側が古い町である。江戸時代には大名町に大名屋敷がいくつかあって、そこに火見櫓があり、士族街の火事の見張りをやっていた。それが無くなって、ここに時鐘楼と火見櫓を兼ねたものができた。
- ・今日のフォーラムでも、ホテルの一番上に展望できる大浴場をつくったというお話があったが、ここはちょうど中心の、一番見晴らしがよい所であり、今日の話は歴史をちゃんと踏まえた話になっていた。
- ・このように歴史が重層的に重なっているところをちゃんと説明できると、非常に面白く、深みのある話になっていく。横井小楠がいたところはそのあと明道館になるし、歴史は重層的になっており、それがわかると、物語性が出てくる。
- ・旧町名を考えると、元々のどこからどこまでがその町だったかを押さえたうえで、もとの範囲はここだけでも、今回はその周辺も含めて浜町としようかというようなステップを踏まないと、それは歴史を改ざんすることにつながってしまうので、注意しなくてはならない。

(東村部長)

- ・デザイン戦略を外に出す時には少し名称を考えたらどうかということについて、我々も会議はデザイン戦略としてやらせて頂いているが、外に発表する際にはまた考えたいと思っている。
- ・早期事業として絵まで出してしまうとこれだけと思われまいかということは気にし

ているところであるが、これはただ会議をして文字に書いただけというものにはしたくないということで出したものである。この絵を見て、今後市議会、県議会の議員の先生方からもいろんなご議論があると思うので、それを正面から受け止めて、これをもう少し深掘りしていきたいという意味も含めて、今回出したものである。

- これだけでも絵を出すと十分インパクトがあるが、がちがちに絵を描かれると民間の自由度が損なわれてしまうというお話をいただいたが、そこは十分危惧している。特に中央公園の整備はこれから様々なアイデアが出てくると思うので、ラフな絵を示すだけに今は留めておきたいということである。
- 食の拠点について、どれだけ人が集まって、どれだけのものになるのか、ということに関しては、予算も必要なところであり、収支採算性、戦略については十分に議論する必要がある。また、予算を得るための調査が必要になってくる。これは今のところは短期的にやりたい事ではあるが、そういう意味では非常に乱暴な出し方をしているかもしれない。
- 食の拠点が駅の周辺では厳しいのではないかという意見について、今、福井市の中央卸売市場の活性化ということをやっており、そちらの方が少し早まっている。駅の周辺に観光客、あるいは市民の方々が集え、食べたり、買い物できたりというところがあった方がよいという議論は昔からあり、これを落とすわけにはいかない。市場との関係を見極めながら、これもまた予算を含めて議論していくところだと思っている。
- 交通体系について少し弱いのではないかということだが、詳細には出していないが、表紙のところには駅を中心とする交通体系の強化と謳わせていただいている。今、市議会等々でも色々ご議論もあるところであり、もう少し議論を待ちながら、出せる絵があれば出していきたいと考えている。
- 吉田先生の話について、時鐘楼の場所がここで初めて明らかにされたと思う。異人館についても本当の場所に建てるのは難しいのではないかとある程度諦めているが、異人館は写真まで残っておりなんとか復元できないかという思いもある。時鐘楼も写真があり、これもなんとか復元できないかという思いの中で、本来あった場所はきっちり押さえて、史実はその場所ではっきり分かるようにしながらも、なんとかシンボリックなものとして再生できないかということでここに謳わせていただいている。

(越智特命幹)

- 福井市では、公共交通は福井市を中心に6方向の幹線軸という考え方でやっている。その中にバスもあれば、鉄軌道もあり、特にバスについては、乗降客数が年々減っているというのはご指摘の通りである。
- その中でも、幹線の幹線たるサービス水準を確保すべく、これからの負担との関係

の中で、どういう形にするかという検討を始めたところである。その中では、幹線はしっかり維持していくという形で進めていきたいと思っている。

- ・ 駐車場については、中心市街地には公共交通はもちろん、車で来られる方も多く、色んな手段でのアクセスを引き続き確保するというのは、現状からいっても続くのだろうと思う。現状、計画的に整備された駐車場以外にコインパーキング等もあり、おそらく量的には相当充足されている。これを、活用面、あるいは空地を利用した駐車場がまち並みを分断しているという要素もある中、街区をどうやって再編していくのかという非常に重要な議論とセットで、駐車場を、これは既存のものを活用するという視点も重視し、大きな課題として議論していきたい。

(西村座長)

- ・ デザインマネジメント、全体の調整をどうするかということについて、骨子の中には書かれているが、これについて今回の早期事業化の中で何かあるか。

(池田課長)

- ・ 10ページに推進方策として書かせていただいているが、このビジョンの実行にあたって、デザインをどうみていくのかということについてはどういう体制が良いのか、詰めていきたいと考えている。現段階で固まった案があるわけではないが、しっかりとした体制はつくっていきたい。

(西村座長)

- ・ 早期事業化の9つ項目がばらばらにならないようなマネジメントができるのか、という質問だが、その点についてはいかがか。

(池田課長)

- ・ 個別ではなくて、まさに全体をイメージして考えている。デザイン戦略そのものに対するマネジメントをしていく全体的なものとして位置付けたいと思っている。

(西村座長)

- ・ 参加型ということで、一方ではかなりちゃんと参加を進めていくべきだというご意見と、あまりそこまでいかないで、もう少し事業者は事業者で、これだけ書いてあればある程度自分たちでという、両方のご意見があったと思うが、いかがか。

(開発委員)

- ・ 民間から投資を呼び込むメカニズムというかサポートシステムを作っておけば良いのであって、いわゆる民間側にも仕掛けていってやらせた方がよいという意味であ

るので、決して参加がいらなないといっているわけではない。

(西村委員)

- 例えば県民会館跡地で何かをやろうとすれば、そこでは色んな声や意見を聞いた方が良いということ。
- 県民会館跡地については将来アウトプットのイメージが出たものだから、そういった工夫の余地もまだこれからということ。まだ予算取りの前なので、まずは枠としておかないと先に進まないということ。

(国吉委員)

- 利用する市民にとってのあり方をどこかで議論しないと、全然知らないところで決まってしまうと愛着もないものができる。先ほどのフォーラムをみても、新しい力も出てきている訳で、そういう方々の力がどこかで凝縮するとよいと思う。戦略というところでどこまで書くかは重要だと思うが、事業型の創造と市民型の創造が重なり合うような仕組みがほしい。

(勝木委員)

- これは非常に継続性が問われている事柄である。継続性とはかなりの部分が行政の継続性。ところが、過去の経験からすると、これは将来的に40年先にはこういう路線で行こうという話をしているのに、トップが変わると変わってしまうというのでは、なんのために決めたかという話になってしまう。市民総意の上で福井はこういう方向でいくんだという継続性を担保する方法はないか。多分、10年後くらいに誰かが変わると考え方が変わってしまって、これはお蔵入りという話になる可能性が高い。
- 鯖江の西山公園は5代前の福島市長の時から取り組んだ話らしい。鯖江というのは、リコールまでしてトップ交代をするような土地柄だが、西山公園に対する思い入れは、福島市長の時代から今の市長まで全く変わらない。そのためにそこは年間100万人もの人が来るようになった。最初に福島さんがはじめた時には、どうしようもない小高い山だった。それくらいの思い入れがないと、原石は光らないと改めて思う。継続的に、あるいは集中的にやるという担保を、どこかで、この組織の中で取れないかなと思うのが、いかがか。

(西村座長)

- なかなか難しいが、例えば城址公園というものが色んな所で議論されて、市民の中に定着していくと、なかなか後戻りできないようになるのではないかな。全ての細部まで変わらないかという難しいが、その大元のところは変わらないように、根を

張る努力をすることはできると思う。

(勝木委員)

- ・福井の場合はキャッチフレーズが変わる。20年くらい前までは“彫刻のあるまち”と言っていた。そして彫刻を作ったが、どこかで消えた。それから“歩いて楽しめるまち”と言った。“歴史が見えるまち”と言った。ころころと標語が変わる。変わるのはいいがそれと同時に今まで継続的にやっていたことが変わってしまう。それでは困る。みんなそれぞれ審議会なども開いているはず。そのことをもう少し継続的に、愚直にやるというのが今求められているのではないかと思う。そうすれば、20年経てば素晴らしいものになるという感じがする

(国吉委員)

- ・横浜では、赤レンガ倉庫は国の施設だが、横浜市民の財産だから絶対残しますと宣言したのが、5代前の飛鳥田市長。議会からはとんでもない、国の資産なのにとおしかりを受けたが、誰が所有者だということとは別に、市民にとっては財産だと当時の市長は言って、簡単には壊さないでほしいという主張をした。
- ・結局そのあと、色んな市長が引き継いで、高秀市長の時代に、国から横浜市が土地を交換して赤レンガ倉庫を譲り受けた。
- ・また、飛鳥田市長時代に緑の軸線とって、非常に構造的な話である軸線構想という事を言っていた。高秀市長の時代には開港シンボルゾーンとあった。しかし言い方は変わっても、コンセプトは変わっていない。言い方はその市長の時代に合わせて変えてもよい。
- ・つまり、例えばこの県都ビジョン全体イメージというものを骨格的なものとして位置付けて、その時代に合うように言い方は変えても、骨組みは変えていけないということが継続できることが重要だし、やり方によってはできるのではないかと思う。

(西村座長)

- ・継続性については、これを変えるということを公約にしていれば変わらざるを得ないと思うし、それは選挙民の問題だとも思うので、なかなか制度だけで決めるというわけにもいかない面もあるかもしれない。

(開発委員)

- ・早期のだいたいのタイムテーブルというのをお示しただけでないか。これは13年後ではだめでもっと早い方がよいと思うが、実現目標としてこの年度くらいまでというのがあると、民間の投資も動くだろうなという思いがある。
- ・2年後には金沢開業が迫っており、待ったなしの状況であるが、金沢開業のアドバ

ンスをなんとかリカバリーする上で、こういうものを今やりますから、民間の人もどうぞ頑張って立ち上がりましょうというようなことであれば、ものすごくよく効くという意味で申し上げている。

(東村部長)

- 骨子の1ページに記載してあるが、短期目標年次としては2018年の福井国体の開催、6年後ということになる。
- 6年後を目標にしてはいるが、当然この中でも優先順位が出てきて、敦賀開業までを目指すということもいくつか出てくると思う。それについてはこれから予算の議論等々で明らかになってくるかと思う。ただやはり早期事業化というものについては2018年までにはという思いでいる。

(下川委員)

- 細かい話だが、1ページのビジョンの全体イメージでは、東西南北の緑の道がつながっている。ただ5ページを見ると、東西軸は駅を挟んでつながるイメージになる。これは仕方ないなと思うが、緑をこのように整備して、市民が立って周りを見ると、緑がつながっているようなイメージをあまり持てないのではないかな。
- 駅を中心に分断される区間があまりにもありすぎる。中央大通りの緑の軸と、東大通りの緑の軸の結節点として、この間にどう連続性を持たせる仕掛けがあるのか、そういうことをしっかりと考えていかななくてはいけない。絵では緑の軸としてさっと引けるが、実際の空間に落とし込んだ時に、リアリティのある緑の軸にできるかどうか。
- こういうことはこれからもどんどん出てくるのではないかなと思う。イメージ図と、実際に行く計画をどうマッチングさせていくのかという手法について、どのようにお考えかというのが少し気になる。
- 7ページの足羽山、足羽川について自然環境が整備される、自然の中で学習などができるといった、まさしくワークショップで出てきたことが反映されていてありがたいなと思う。
- 実は足羽山に至るまでの動線、足羽山自体の動線が複雑で、山に登ると色んな枝分かれした道があって、どこに何がつながっているのかよく分からない。その動線的なものも整備していくようなイメージを持たれた方が良いのではないかな。
- 8ページに足羽川への植栽による、水辺の整備、活用と書いてあるが、説明していただいた時に出てきたキーワードである、生態系とか親水ということをしっかり明示したほうが良い。生態系を守るために自然の草をそこに持ってくる、水辺の整備には親水性を高めていくといった、キーワードをしっかり挿入すべきである。

(西村座長)

- ・単なる緑ではなくて、生物の多様性だとか、地域の植生に配慮したものにすべきということ。
- ・緑のつながりについては、細かいレベルでのつながりと、大きな軸線の描き方をどう調整するかということで、今後の課題として考えていただきたいと思う。

(越智特命幹)

- ・5ページの件について、東と西の間に駅舎があるので、植樹を物理的につなげるのは難しい。しかし、西口の駅前広場については今デザインの検討をしており、当然緑というのが大きなテーマになっている。当然、中央大通りや城址方面との緑の連続性というのは考えている。
- ・緑でつなげるのは難しいかもしれないが、西と東の一体感のあるデザインの考え方を整理しなくてはいけないという話も専門家会議ではでていたので、検討していきたい。

(吉田委員)

- ・福井城の今残っている遺跡そのものはそんなに全国に誇れる規模ではない。しかし、福井城址の史料を見ていると、外堀のところまで考えると、これは大変大きい城郭である。68万石でスタートして、しかも家康の子供なので、全国に誇れる規模だった。途中で30万石、35万石になり、士族の居住空間は減少する時に住宅の土地が畑になったりするが、町家そのものは68万石の規模を明治維新になってもずっと維持している。
- ・これは全国に誇れることであり、その説明をして、このような大きな城郭を明治維新まで維持していたというのを我々の誇りにしていくべきではないかと思う。
- ・一番外側のある場所にはこんな門があったというふうに、示すことができるような方策を考えると、一つ大きなものができるのではないか。天守閣ができればそれが一番大きなものだが、難しいと思うので。

(西村座長)

- ・そういう表現が、サインなどでもあるとよい。

(国吉委員)

- ・これから実現化するときに、プロジェクトニュースみたいなものを随時出していくと良いのではないか。全てが市民参加できるわけでもないだろうし、市民からの提案や民間事業者からの提案をいただいたりと、色んなタイプがあると思うが、プロジェクトの進捗状況や、このプロジェクトが始まりましたということがその都度発

信されれば、非常に分かりやすく、市民が一体感を持てる進め方になっていく。そういう仕組みを是非やってほしい。

- 独自のホームページを持つということもある。発表体制を県と市で合同で持ち、公式発表を3か月に一度くらいずつ出していく。その中で、それに対するリアクションや意見を市民からも出せる。プロジェクトによってはアイデア募集というののもあったもいいかもしれない。
- そういう仕組みを最初から埋め込んで進められたらどうかと思う。具体的には印刷物にするか、インターネットで情報だけ出すか、インターネットは見られない人もいたので、年間何回かの市民に向けてのペーパーの中にそういう欄をつくっていくか、やり方はいろいろあると思う。

(西村座長)

- 先ほどの、今後どうなるかという話だが、基本的にはこの中の実現性が高いものから予算化していったって、2018年の国体の時期までに全体が動けるようなスケジュールで考えたいという事でよいか。
- 県民会館跡地では、おそらくそのあと中央公園全体をどうするかという話があって、中央公園も含めて、今後この辺りで建替えが進んでいく時の跡地をどうするかとか、土地の転がしではないが、種地としてどう考えるかということなど、大きな話が次の段階で出てくると思う。とすると、ある種今ある公園は、整備はするが未来永劫あるわけではなくて暫定といえれば暫定のもの。
- そうすると、そういう暫定的なものだということと、将来的にはもっと議論を深めていったってどうするかという議論をするということと、並行して知らされているということが必要だと思う。
- そういう意味でガチガチのものを作るというよりも後で軌道修正できるようなものというイメージではないかなと思うが、その辺りはいかがか。

(東村部長)

- 今言われた通り、今回の中央公園の整備については、最終形ではない。最終形になると、福井市役所はどこへ移転するのかとかという話になって参りますし、福井市役所の場所も中央公園の一部になってくる。そういうことも含めて、若干なりとも整備できるところを暫定的にこのようにしましょうということで始めたいなど思っている。ここで中央公園の整備は終わりということでは決してない。

(西村座長)

- 今後は今日出た意見も反映させていただき、来年の1月下旬に予定されている第5回の懇話会にまとめとして出していただくということでお願いしたい。